

「明日を拓く岩手の絆」

平成30年度 第56回岩手県小学校長会総会開催



第302号

岩手県小学校長会
代表 外山 敏
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



第五十六回岩手県小学校長会定期総会が、四月二十日（金）、県下各地区から二百九十六名の会員（会員総数三百十六名）が出席し、都南文化会館（キャラホール）で開催されました。総会で選出された外山敏会長（桜城小学校）は、「明日を拓くいわての絆を心に刻み、小学校長会の組織を機能させながら、子どもたちの幸せを願って、本県教育の復興推進と様々な教育課題を解決していくために、情報を共有し、連携を深め取り組んでいくことを確かめ合いたい。」と熱い思いを参加者に訴えかけました。

総会の内容は次のとおりです。

総会Ⅰ（午前）

一 開会の言葉

青笹光一（宮古）

二 国歌斉唱

三 会長代行挨拶

外山 敏会長代行

四 感謝状・記念品贈呈

退会者六十一名

（出席二名）

五 退会者代表挨拶

加藤孔子 氏（前副会長）

六 来賓祝辞

（一）岩手県教育委員会

教育長 高橋嘉行 氏

（二）岩手県市町村教育委員

会協議会

会 長 千葉仁一 氏

※ 代読 副会長

吉川健次 氏

七 岩手県教育委員会行政説明

（一）教職員課首席経営指導

主事兼小中学校人事課長

荒川享司 氏

（二）学校教育課首席指導主

事兼義務教育課長

佐野 理 氏

総会Ⅱ（午後）

八 議長選出・署名委員委嘱・

書記任命

九 報告

十 議事

十一 新役員挨拶

十二 閉会の言葉

箱崎 悟（紫波）

※閉会後に、理事・評議員合

同会議並びに各専門部の合同

会議が開催されました。



感謝状贈呈



総会提案



会員席

子どもたちの幸せを願って



岩手県小学校長会

会長 外山 敏

県内各地から桜の花の便りが聞こえてくるようになり、さわやかな季節となりました。

表すものであり、私ども後輩への温かいご指導に對しまして、心から感謝申し上げます。

本日ここに、岩手県教育委員会教育長 高橋嘉行様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長 吉川健次様をはじめ、多数のご来賓の皆様をお迎えし、第五十六回岩手県小学校長会 定期総会を開催できまことに、深く感謝申し上げます。

そして、春風の訪れとともに、今年度、岩手県小学校長会は、新たに六十二名の校長先生方をお迎えいたしました。大変、心強く感じております。新会員の皆様には、これまでの豊富な経験と実践を生かし、学校経営の責任者として、地域に根差し、郷土の復興を支える子どもを育てるべく、持ち前のお力を存分に発揮されますよう、ご期待申し上げます。

経過いたしました。被災した沿岸部の小学校では、新校舎の完成や校庭の仮設住宅の撤去など、教育環境の改善が見られるようになってきました。その一方で、被災地区の復興に係る環境の改善や子どもたちの心のケアは、長期的な対応が必要になってきており、教育の復興に向けた取組は、今後も継続していかなければならないものと、強く認識しているところでです。

震災後、私たち小学校長会が、会員の総意として大切にしてきた「明日を拓く岩手の絆」をしっかりと心に刻み、これからも「いわての復興教育」を推進していくことを、改めて確認したいと思えます。

現在、我が国は、知識基盤社会への新たな進展や、グローバル化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化により、複雑で予測困難な時代を迎えています。昨年三月に告示された新学習指導要領では、そのような時代の中にあっても、児童一人一人が社会の変化に受け身ではなく、主体的に関わり合い、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう求められています。

加えて、学校は、いじめ・学校不適応問題の解消、特別支援教育の充実、子どもと向き合う時間の確保、教員の資質向上、情報モラル教育の充実などの複雑化・多様化した課題を解決し、子どもたちに必要な資質・能力を育成するために「社会に開かれた教育課程」を実現することが求められています。

また、今年度から道徳の教科化、外国語活動をはじめとする二年間の移行措置が実施され、平成三十二年度の全面実施に向けた各学校の取組がいよいよスタートしました。変化する時代の潮流や押し寄せてくる様々な課題を踏まえ、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、互いの個性や絆を大切に作る社会づくりに貢献できる人間の育成に向け、私たち校長は、一層リーダーシップを発揮していかなければなりません。

私たち校長は、学校経営の責任者であり、各学校や地域の状況を的確に把握し、子どもたちや地域にとつて何が最善なのかを判断し、ぶれることなく着実に取り組んでいくことが重要な責務です。

本県教育の復興推進と様々な教育課題を解決し、乗り越えていくためにも、県内の校長がこの校長会という組織を機能させながら、情報を共有し、共に連携を深め取り組んでいくことを、ここに、改めて確かめ合いたいと思えます。

結びに、本日の総会の開催に当たり、多大なご協力をいただきました岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、また、総会の運営にご尽力いただきました盛岡市校長会、岩手地区校長会の皆様に対しまして、深く感謝申し上げます。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会

教育長 高橋 嘉行様

第五十六回

岩手県小学校

長会定期総会

の開催にあたり、

一言お祝



いを申し上げます。校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営にご尽力いただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

東日本大震災津波被災から七年余、そして一昨年八月の台風十号による土砂災害から一年八か月が過ぎ、今日まで、校長先生方には各学校として地域の中心となって、本県教育の復興と発展に向け、献身的に取り組んでいただいているところであり、復興への歩みは、幼児児童生徒の心のサポートや、「いわての復興教育」など、全県一体となった教育実践等の積み重ねにより、着実に進んできております。

このような教育現場の復興を支えてこられた小学校長会の皆様のご尽力に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、本年度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、熱意と創造性をもって、教職員等との相互理解に努めつつ、学校経営に思う存分力を発揮されますようご期待申し上げます。

さて、新学習指導要領においては、二十一世紀の知識基盤社会において急激に進む情報化やグローバル化といった予測困難な社会的変化の中で、子どもたち一人一人に未来の創り手として求められる資質・能力を確実に身に付けてもらうため、カリキュラムマネジメントの確立や「社会に開かれた教育課程」の実現が重視されております。校長先生方には、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という視点を重視し、新学習指導要領の趣旨を学校経営に具現化していただきますようお願いいたします。

本年度は、今後十年間の岩手が目指す将来像や長期的な取組の方向性を示す県の次期総合計画の策定に併せ、教育分野の個別計画となる、「岩手県教育振興計画(仮称)」を策定することとしております。その策定に当たっては、岩手が持つ多様な豊かさやつながりなどにも着目し、岩手だからこその教育、やるべき教育という視点なども取り入れながら取り組んでいくこととしております。

また、新学習指導要領の段階的な導入に向けた対応や、学校教育における文化芸術・スポーツの振興などに加え、学校教育の一層の充実を図るため、学校における働き方改革に重点的に取り組むとともに、小学校五年

生への少人数指導との選択制による三十五人学級の導入、校長及び教員の資質向上に関する指標に基づく教員の育成など、児童生徒一人一人に向き合い寄り添う教育の推進と、切れ目のない学びの保障などに取り組んで参ります。

小学校の六年間は、幼児教育で培われてきた学びの芽生えから各教科等の特質に応じた学びへと、円滑に移行させ、資質・能力の育成を図りながら、中学校教育へつなげる重要な時期です。各学校においては、人間としての基礎・基本をしっかりと培い、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成にご尽力いただきたいと思っております。

校長先生方には、夢と希望と自信と勇気をもって、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校に入学して良かった」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努め、教職員の育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

県教委におきましては、市町村教委との強固な連携の下に、学校をしっかりと支えていく考えです。本県の教育行政の一翼を担っていただいている校長先生方には、今後とも岩手の教育の発展のために一層ご尽力いただくことをお願い申し上げますとともに県小学校長会の上昇、すのご隆盛をご祈念申し上げます。祝辞といたします。

祝辞(要旨)

岩手県市町村教育委員会協議会

会長 千葉 仁一様

(代読吉川健次様)

平成三十年

度岩手県小

学校長会定期

総会の開催にあ



たり、岩手県市町村教育委員会協議会を代表し、心からお祝い申し上げます。ご参会の皆様には、県内各地の小学校において、学校経営を通じて子どもたちの教育に心を尽くされ、本県の学校教育の充実と発展にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、この三月をもちましてご退職なされました皆様のこれまでのご労苦とご功績に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、今年度新たに校長に昇任されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

さて、東日本大震災の発生から七年が経過しました。県教育委員会では、十年後、二十年後の岩手を支える人材を育成する目的から「いわての復興教育」を県下全体で力強く推進しております。岩手の復興・発展、そして地域の防災を支える人材を育成するために、校長先生方のリーダーシップの下、各学校や地域の実情に応じた様々な取組を通して、復興に向けた明るい希望を、子どもたちや広く市民・

県民に与えていただいておりますことに、重ねて感謝と敬意を表します。

現在、新しい学習指導要領の全面実施に向けて、各学校では、趣旨と内容の周知徹底と、移行措置の学習内容を踏まえた授業の計画的な実施に取り組みされているものと存じます。これに加え、働き方改革に応じた業務の役割分担・適正化など、教育や学校を取り巻く状況は大きな変革の時期を迎えております。

こうした中で、私たちがなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに生きる力を育むことであり、校長先生方におかれましては、教職員一人一人が、教育に携わっていることに責任と誇りを持ち、豊かな人間性と、深い専門性を発揮して教育活動に邁進するとともに、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。

教育現場が直面する様々な課題に対して、大いに指導力を発揮していただき、保護者や地域に開かれた学校運営を推進し、学校と地域が協力して、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成にご尽力いただきたいと思います。

結びに、本会の上昇を祈念し、皆様方の一層のご活躍とご健勝を祈念し、祝辞といたします。

行政説明の概要

教職員の定期人事異動等の状況について

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長 荒川 享司 様



- 1 人事関係の概略 () 内は昨年度比 異動総数は 1,519 名 (+105)
- (1) 管理職 校長任用 79 名 (-2) 副校長 79 名 (-27)
 - 女性管理職 校長 小学校 47 名、中学校 7 名、義務教育学校 0 名
 - 副校長 小学校 90 名、中学校 17 名、義務教育学校 1 名
 - (2) 新採用 小学校教諭 141 名・中学校教諭 76 名 (うち義務教育学校 4)、養護教諭 21 名、栄養教諭 1 名、来年度は 225 名程度の採用予定 (加点措置を実施: 英語の免許を所有する小学校受験者、国・社・数・理・英の免許を所有する中学校技能教科受験者、特別支援学校免許を所有する小・中学校受験者に 10 点の加点)
 - (3) 再任用 197 名 (+60) (29 時間 128 名、フルタイム 69 名)
- 2 岩手の少人数教育
少人数学級 35 人学級を小学校では 5 年生まで拡充した。
- 3 人材育成
- (1) 新採用教員の配置校 161 校 (初任者を育てながら併せて教職員も育つような学校の活性化に期待する)
 - (2) 資質の向上に関する指標の策定 キャリア・ライフステージに応じた研修と人材育成となるよう取り組む。
- 4 不祥事の未然防止
昨年度の懲戒処分 14 件 連続して 3 件の酒気帯び運転事案が発生。体罰事案は 1 件発生 (心無い指導・威圧的な指導にも留意が必要)。不祥事ゼロを必達目標として本気で取り組む。
- 5 その他
教職員の勤務負担軽減への取組 時間的・精神的に余裕をもって子どもとじっくり向き合えるよう、校長の思い切ったマネジメントで環境をつくり、意欲を喚起してほしい。

学校教育課関係事業について

学校教育課首席指導主事兼 義務教育課長 佐野 理様



- (1) 三 教職員の働き方改革
研究指定の在り方・各種研
- (2) 県民計画第三期アクションプランの最終年度
・児童生徒の学力向上
・豊かな心を育む教育の推進
・健やかな体を育む教育の推進
・特別支援教育の充実
・家庭・地域との協働による学校経営の推進
- (1) 二 学校教育の重点について
大震災津波からの教育の復興
・いわての復興教育プログラムの改訂に着手
・幼児児童生徒の心のサポートの充実
- (1) 四 新学習指導要領の全面实施
移行措置の確実な実施
・学校教育指導指針を参照
・教育課程説明会の継続実施
・授業力ブラッシュアップ事業の展開
- (2) 五 幼児教育について
幼稚園教育理解推進事業
・幼児教育推進モデル指定研究事業 (奥州市)
- (1) 五 幼児教育にかかると対応
・教員研修の充実・拡充
・移行措置期間のキャリアアップマネジメント
- (4) 六 NIE 全国大会について
・盛岡市及び大槌学園で開催
・情報活用能力・学力向上に生かす
- (1) 七 終わりに
新しい学習指導要領が幼稚園から高等学校まで一貫して分かり易く整理された。互いの考えを尊重し、間違いなども大事にしながら学ぶ児童生徒を育てて行きたい。
- 修等の在り方の見直し
・研究の進め方
・研究成果の公表の仕方等
- (1) 四 確かな経営理念のもと、「生きる力」の育成や「生命尊重の精神」を育む調和のとれた教育課程の着実な実施と評価、改善を行う。
・被災地区の学校運営上の諸課題を的確に把握し支援することにも
・被災地区と内陸部の学校間連携、震災を後世に語り継ぐ活動などを組織的・継続的に推進する。
・校長自ら研鑽に励むとともに、教職員の資質能力と協働意識の向上を図り、「ふるさと」を愛し共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の学校教育」を推進する。
・自他の命を大切にしながら共に生きる心の育成と人間尊重の精神に基づく積極的な生徒指導の充実を図る。
・調査研究及び要望活動を組織的に推進し、学校における働き方改革を含めた教育諸条件の改善・整備のための取組を推進する。
・広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関・団体との連携強化を図る。

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集して、問題解決に主体的に取り組み、着実にその成果をあげてきた。

私たちは、東日本大震災発災後からの会員の総意「明日を拓く岩手の絆」を決して忘れることなく、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第五十六回総会の総意をもって宣言する。

平成三十年四月二十日
岩手県小学校長会 第五十六回 総会

地区校長会研究交流

清新はつらつとした教育活動の充実・向上を目指す紫波の教育

紫波地区校長会

一 はじめに

紫波地区には、紫波郡校長会、紫波町校長会、矢巾町校長会と三つの組織があります。紫波町内には小学校十一校、中学校三校、矢巾町内には小学校四校、中学校二校、あわせて二十校が紫波地区にあります。

紫波地区の校長会では、小学校と中学校の連携を密にしなから、岩手県小・中学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に、児童生徒に知・徳・体にわたる「生きる力」を育むための研究の推進にあたっています。

毎年、十一月の第三週に開催される「紫波郡校長会研究大会」では、小学校部会と中学校部会の研究の取組を発表し、交流を図っています。

二 研修計画の概要

本年度の紫波地区の校長会では、次の方針に基づき研修を進めていきます。

- ・ 会員の英知と情熱を結集し、教育者としての使命に徹し、清新はつらつとした教育活動の充実・向上を目指す。
- ・ 岩手県及び紫波町・矢巾町の教育課題を認識し、学習指導要領の趣旨の実現に向け、学校経営理念を明確にし、学校教育の充実と発展に努める。
- ・ 会員相互の研修や情報交換・連携・協力を推進する中で、校長としての識見・力量を高める。
- ・ 本会主催の研究大会において部会の研究の取組を発表し合い、その成果を共有する。

・ 会員は、部会研修会、紫波町校長会研修会、矢巾町校長会研修会、各種研究大会への参加等を通して、研修のより一層の充実と努める。

三 研究部会構成の概要

今年度の研究部会構成（小学校二部会）と研究内容は次のようになっています。

小学校A部会（評価・改善）
○ 学校評価に基づく教育活動の改善に向けた校長の在り方。
（二年次・最終）

小学校B部会（豊かな人間性）
○ 「他と共に、よりよく生きるための人権感覚の育成」の内容で研究を進める。
（三年次・一年目）

中学校部会（学校経営）
○ 「学校現場から発信する働き方改革の提案」の内容で研究を進める。
（三年次・一年目）

四 県大会発表概要

今年度の県宮古大会において、紫波地区からは小学校「学校経営」【2評価・改善】分科会での発表が予定されています。その概要を紹介いたします。

◆研究主題

学校評価に基づく教育活動の改善に向けた校長の在り方（アンケート調査の分析と考察を生かした実践を通して）

◆研究のねらい

より質の高い教育活動を展開するため、学校評価の工夫とその分析に基づいた改善への取組から、学校経営の質、教育課程の質、教員の質等を向上させるための校長の在り方を探る。

◆研究内容

教育活動の改善に向けて
①経営方針の策定、具現化の進め方、学校評価の内容、実施方法の改善
②教職員の意識を高める取組
③保護者、地域との関わりによる教育活動の取組

◆成果

①PDCAサイクルにおける学校評価の適切な位置づけが図られ、教育活動の改善に向けた取組が着実に推進されている。
②主体的に考え具体的な働きかけを行うといった担当職員の積極的な関わり、評価や改善に係る同じ認識に立った全職員の積極的な関わり、自分の考えをもって互いに教え合い認め合う職員

◆課題

①目標の共有、プロセスの設計、教職員の協力・協働関係に基づいた学校評価と教育活動の着実な改善。
②意欲や努力が報われ評価される体制づくりと職員一人一人の成長を目指した取組を積み重ね、指導力の向上を図ること。
③地域の信頼を得る教育活動、及び地域の信頼に応える学校づくりの推進。

五 おわりに

十月十二日（金）開催の県宮古大会では、たくさんのご指導・ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。

（紫波町立赤石小学校

妻田 篤）

復興の槌音

宮古地区校長会

した。発災後、卒業式・入学式は避難所となっていた体育館で行いました。

昨年の夏、どこかで見覚えのある方に、突然の訪問を受けました。見覚えがあったのは、写真が校長室に飾ってあったからです。震災当時の校長先生でした。訪問の要件は、仮設住宅が完全撤去された校庭の写真と学校周辺の減災のための防潮堤、そして、整備されつつある嵩上げされる道路の写真がほしいということでした。いろいろなところから講演の依頼があるそうです。当時を振り返りながら、命の大切さや防災についてお話をされているそうです。

本校は、赤前地区の中でも高台に立地（海拔二十七メートル）していましたが、校庭のすぐ下まで津波が迫ってきたと言われています。学校管理下にあった子どもたちの命はすべて守ることはできませんでした。しかし、親を亡くした児童もいましたし、家を失い仮設住宅に暮らすことになった児童も約半数近くにもなりま

した。発災後、卒業式・入学式は避難所となっていた体育館で行いました。

避難所の運営は、市役所本庁舎の水没や道路の寸断により市職員が対応できなかったため、教職員や地域の住民が対応しました。初期の避難所の運営は、校長先生を中心に教職員、地域の方々で対応するしかなかったそうです。学校再開後も子ども心のケアをはじめ、被災児童と保護者への就学援助等の支援、学校における危機管理マニュアルの見直し、防災と復興の視点からの教育内容の見直しと再構築等、喫緊の課題が山積していたとお聞きしました。

その校長先生が、「もう瓦礫の写真はいいだらう。そこからの復興の様子を紹介したい。」とのことでした。撮影された写真を見せていただく、宮古湾を囲むように減災を目的とした防潮堤の建設の様子、沿岸各地及び沿岸と内陸を結ぶ道路網の整備の様子（宮古市と山田町間は完成、宮古田老と岩泉間は完成）、沿岸各地と内陸を結ぶ鉄道の

整備の様子（平成三十一年三月完成予定）、本校のある赤前地区内においても、三メートルほど嵩上げをする道路の工事の様子（主要地方道重茂半島線、平成三十年完成）が記録されていきました。校庭いっぱいには広がっていた仮設住宅は、当初、平成二十九年

2011.3.11
東日本大震災からの復興
今日から明日へ 一歩ずつ
宮古地区

度末に完全撤去、三十年度中に校庭の完全復旧の計画でした。しかし、二十八年度末には、仮設住宅が完全撤去になり、完全復旧しました。今年度は、八年ぶりの本校校庭での運動会実施に向けて、子どもたちは一生懸命に取り組んでいます。

復興教育はもろろのここと、地域の特徴ある教育的行事も復興とともに、徐々に整備されてきました。防災教育として、学校・保護者・地域が連携して年四回登下校指導を実施しています。また、地域内の避難場所の確認・避難路の確認・避難の仕方をねらいとした津波避難訓練を実施しています。特設授業としては、県立宮古工業高校の津波実験装置を用いた津波出前授業、横軸連携校からのお米を活用した感謝祭、メモリアル集会を実施しています。

これらの行事や集会、授業を復興教育として位置づけ取り組んでいます。子どもたちの心の中に残された傷跡は非常に大きなものとして感じています。子どもたちの心のケア及びサポートを常時行い、スクールカウンセラーの先生方にも相談したり、直接お話をいただいたりもしています。

結びに、私事で恐縮ですが、震災により三人の家族を亡くしました。現任教への異動が決まった時にも、海に對

する恐怖心と不安は払拭できずにいました。自分自身のPTSDも疑いました。スクールカウンセラーの方に相談する機会に恵まれ、「それって普通のことです。大切な人を失ったのですから。」という言葉にどれだけ救われたことか。前述のように物質的な復興は着々と進んでいます。しかし、考えている以上に、思っている以上に、心のケアやサポートが必要な子ども・保護者がいます。震災や復興に真摯に向き合い、心の復興を着実に進めていきたいと思っています。



校庭の仮設住宅と宮古湾 (H28/4)

(宮古市立赤前小学校

校長 館脇 敏朗)

平成30年度

岩手県小学校長会役員

会長（1名）

盛岡地区 盛岡市立桜城小学校長 そとやま さとし 外山 敏

副会長（4名）

盛岡地区 盛岡市立本宮小学校長 こだま ただあき 古玉 忠昭

紫波地区 紫波町立上平沢小学校長 はごさき さとる 箱崎 悟

一関地区 一関市立山目小学校長 ちだ ともあき 千田 智明

久慈地区 久慈市立久慈小学校長 さかがわ たかし 坂川 孝志

会計監事（3名）

岩手地区 雫石町立七ツ森小学校長 ちば ひろゆき 千葉 裕之

釜石地区 釜石市立鶴住居小学校長 なかがるまいとしお 中軽米 利夫

二戸地区 九戸村立伊保内小学校長 ふじむら けんいち 藤村 健一

常任理事（5名）

総務部・事務局長 盛岡市立仙北小学校長 さとう たかし 佐藤 卓

行財政部 盛岡市立津志田小学校長 おおた かつひろ 太田 勝浩

研修部 盛岡市立仁王小学校長 にしゅうじ しんいち 仁昌寺 真一

広報・編集部 盛岡市立玉山小学校長 なかむら まさひろ 中村 雅彦

生徒指導部 盛岡市立緑が丘小学校長 くぼ としかつ 久保 智克

事務局（2名）

事務局長 さとう たかし 佐藤 卓

常勤書記 いしがめ さとみ 石亀 智美

理事

評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	城南	大西洋悦	米内	山本守	月が丘	尾澤厚子
			好摩	藤井新一		
岩手	沼宮内	佐々木一成	大更	大谷冬太	田頭	宮康幸
紫波	上平沢	箱崎悟	古館	橋本昌好		
花巻	宮野目	玉山勉	太田	藤本実		
遠野	遠野	坂下明洋	鱒沢	川村達彦		
和賀	黒沢尻東	川村淳	黒沢尻北	多田克己		
胆江	真城	佐藤政幸	第一	細川直宏	永岡	田中佳代子
一関	山目	千田智明	一関	吉野新平	室根東	高橋澄夫
気仙	世田米	佐々木英雄	吉浜	谷澤通広	赤崎	薄衣裕昭
釜石	白山	千葉愛子	栗林	佐藤勉		
宮古	宮古	青笹光一	山口	佐々木計	山田北	渡邊淳
久慈	久慈	坂川孝志	長内	山口勇雄	夏井	船渡正勝
二戸	福岡	新毛公生	浄法寺	平義昭	晴山	工藤健三

専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

総務部担当理事 (6名)

大西 洋悦 (盛岡・城南)
箱崎 悟 (紫波・上平沢)
千田 智明 (一関・山目)
坂川 孝志 (久慈・久慈)
古玉 忠昭 (盛岡・本宮)

◎佐藤 卓 (盛岡・仙北)

行財政部担当理事 (3名)

玉山 勉 (花巻・宮野目)
川村 淳 (和賀・黒沢尻東)

◎太田 勝浩 (盛岡・津志田)

研修部担当理事 (3名)

坂下 明洋 (遠野・遠野)
青笹 光一 (宮古・宮古)

◎仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

広報・編集部担当理事 (4名)

佐々木一成 (岩手・沼宮内)
千葉 愛子 (釜石・白山)
新毛 公生 (二戸・福岡)

◎中村 雅彦 (盛岡・玉山)

生徒指導部担当理事 (3名)

佐藤 政幸 (胆江・真城)
佐々木英雄 (気仙・世田米)

◎久保 智克 (盛岡・緑が丘)

行財政対策委員 (5名)

及川 政己 (盛岡・東松園)
畠山 雅之 (盛岡・土淵)
北田 光志 (盛岡・山王)
佐々木 勉 (盛岡・永井)
藤井 新一 (盛岡・好摩)

調査研究委員 (6名)

細川 雅彦 (盛岡・向中野)
石川 耕司 (盛岡・太田)
佐々木 伸 (盛岡・高松)
遠藤 耕生 (盛岡・見前)
千葉 亨 (盛岡・見前南)
山本 勉 (盛岡・巻堀)

広報・編集委員 (5名)

作山 文康 (盛岡・大慈寺)
山口 道明 (盛岡・山岸)
川上 良治 (盛岡・北厨川)
宮崎 正俊 (盛岡・城北)
中村 互 (盛岡・北松園)

生徒指導委員 (5名)

高橋 眞司 (盛岡・松園)
山本 守 (盛岡・米内)
佐々木 満 (盛岡・太田東)
中館 秀行 (盛岡・羽場)
佐々木由紀子 (盛岡・都南東)

全連小理事 (2名)

外山 敏 (盛岡・桜城)
佐藤 卓 (盛岡・仙北)

全連小標準法委員会 (1名)

久保 智克 (盛岡・緑が丘)

全連小施設設備教材等委員会 (1名)

中村 雅彦 (盛岡・玉山)

全連小各部担当者 (3名)

- (1) 対策担当者
太田 勝浩 (盛岡・津志田)
- (2) 調査研究担当者
仁昌寺真一 (盛岡・仁王)
- (3) 広報担当者
中村 雅彦 (盛岡・玉山)

東北連小理事 (2名)

外山 敏 (盛岡・桜城)
古玉 忠昭 (盛岡・本宮)

東北連小監事 (1名)

新毛 公生 (二戸・福岡)

東北連小専門委員 (2名)

- (1) 教育課程委員
仁昌寺真一 (盛岡・仁王)
- (2) 対策委員
太田 勝浩 (盛岡・津志田)



理事会・評議員会合同会議



研修部合同会議



生徒指導部合同会議

編集後記

総会において、会長に選出された外山敏校長は、小学校長会が会員の総意として大切にしてきた「明日を拓く岩手の絆」を心に刻み、本県教育の復興推進と様々な教育課題の解決のために、組織を機能させ、情報を共有し、連携を深め取り組んでいくことを確かめ合いたいと呼びかけました。

今年度は、新しい学習指導要領の完全実施に向けて、子どもたち一人一人に、未来の創り手としての資質・能力を育むカリキュラムマネジメントの確立や社会に開かれた教育課程実現への取組が本格的に始まります。

併せて、特別の教科道徳の全面实施、外国語教育への対応、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善などに取り組みながら、教員のキャリア・ライフステージに応じた人材育成を各学校で実施することや、働き方改革に応じた業務の適正化・勤務負担軽減への取組も課題となっております。

会員の皆様の英知を結集して、子どもたちの幸せを願い、保護者や地域の信頼に応える確かな教育の実現に専心する責任と誇りをもって、教育活動に邁進してまいります。

(担当) 中村 雅彦